

鳥取駅周辺再整備に係るサウンディング型市場調査 結果概要

鳥取市都市整備部まちなか未来創造課

鳥取駅周辺再整備は民間活力やノウハウを導入した事業実施を目指しており、民間事業者に対して本事業への参画意欲や、施設の機能・業務の意向を把握するため、サウンディング型市場調査を実施しましたので、その結果を公表します。

1. 実施日程

日程	内容
令和6年7月5日～7月26日	参加受付
令和6年8月2日	対話の実施

2. 参加事業者数

15社（傍聴23社）

3. 対話内容

【質問①】 若者や子育て世代が集い、楽しめる民間施設・機能、その進出可能性・条件・リスク
【施設・機能】 <ul style="list-style-type: none">シネマコンプレックス若者をターゲットにした施設おしゃれなカフェや書店を融合した施設飲食店、カフェ駅前の賑わいをつくるイベントミニシアタールーム産官学連携するUDC（アーバンデザインセンター）駅に魅力を感じ若者が集える空間子育て世帯が住みやすいエリア整備
【進出可能性・条件・リスクなど】 <ul style="list-style-type: none">人流データの分析による集客ターゲットの明確化人口減少下での集客方法施設規模が大きくなり、フレキシブルに対応できる作りをしたホール（運営）脱炭素社会への貢献建築費の高騰

【質問②】

ワクワクが 50 年持続するためのアイデア

- 行政や地元企業と連携して、地域に根差した活動をしていきたい。
- 地域主導で夏祭りの実施や防災について地域で検討していくなどのエリアマネジメント活動が長期的な持続可能性を求める上で重要。
- 市場分析をしたうえでの対策を繰り返すことが重要で、施設としては可変性を意識した方が良い。
- 地元の企業や市民が継続して来てくれる場所とする。住んでいる方の市民活動の場所を提供して、一緒に盛り上げていくことが重要。
- 市民と一体になった活動が重要であり、周辺施設との連携とデータの収集も重要。
- 山陰初出店という言葉が魅力。魅力ある飲食店やテナントを誘致できれば、地元にながら食で世界を楽しめるという価値が生まれたり、全国から鳥取に来た人も鳥取の食を楽しんでもらえる施設が必要。
- エリアの魅力を伝えるため、継続的な情報発信が必要。イベントや名所の新しい情報の発信、駅から名所へのアクセス方法など、インバウンド客にも対応した施設づくりも重要。
- 地域のハブとなり、老若男女を集める必要があり、猥雑さもある程度必要。可変性をもって変わる、本物をつくる、この2つの切り口を考えることが必要。
- 老若男女に役に立つ施設が必要であり、母親世代の来場のために駐車場整備への課題の対処が必要。
- 人流をつくるのが活性化につながる。周辺地域の波及を考えて人流をつくることを観点に考えることが重要。
- 複合施設のエリアごとの特徴を出すことが必要。
- どの世代からもニーズのある複合施設であることが必要。コンパクトシティ化によって人の密度があがると効率性も高まる。
- 人口減少の中で、コンパクトシティ化が重要。エリアマネジメントの観点から周辺の公園と一体となったイベントや防災訓練の実施など地元の人に維持管理をサポートしてもらえるような取組が参考になる。
- 変化に対応できるような場所とし、来店頻度をあげていくことが重要。